



悟後の 修行（下） 下化衆生

柳 幹 康

白隠によれば我々にはみな仏の心という本性そなが具わっており、それを看取して悟った後には悟後の修行に進まなければなりません。悟後の修行には二つの側面があり、その第一が前回見た「上求菩提」——自身の悟境を不断に練り上げていくこと——でした。今回は第二の側面である「下化衆生」、ならびに兩者の關係等について見てまいります。

下化衆生——下に衆生を教化する——について白隠は、「法施が第一である」と述べています（『宝鑑貽照』）。法施とは法を施すことおしえとであり、人々に因果の道理を教え、善行を積ませることです（『八重葎』巻一）。これにより皆が仏道修行に進み、等しく悟りを完成させるので、様々な施しのなかでも最も優れたものとされます（『布鼓』巻一）。それゆえ法施の功德は永遠に尽きることがないといえます（『八重葎』巻二下）。

法おしえを施すためには、施すべき法おしえの収集が不可おしえ欠です。白隠は言います、「もしも法財ほうざい（法おしえという財宝たから）が無いなら、どうやって法施するというのがか」（『八重葎』卷三）。また法財は数多く集め続けることが肝要です。なぜなら聞き手に応じて法おしえを使い分けなければならぬからです。白隠は言います、「仏教の内となく外となく広く書物を読んで無量の法財を集め、上根・中根・下根といった様々な人々を遍あまねく救あまねわなければならぬ」（『お婆おば々々の粉こ引き歌うた』）。

悟後の修行の二つの側面「上求菩提」と「下化衆生」は、相補的な関係にあります。そもそも人々を救うためには、自身の菩提さとりが必須です。なんとなれば、自分が見ていない真理を人に指し示すことなど到底できはしないからです（『お婆おば々々の粉こ引き歌』、『宝鑑貽照』）。その一方で、自身の菩提さとりを完成させるために

は、人々の救済が欠かせません。なぜなら迷いの元凶は我見がけん（自分が実在すると思いなし執着すること）であり（『遠羅天釜とらてんがま 続集』）、それを断つためには自他を分けず一切を憐れみ救済する必要があるからです（『於おに仁安にあ佐美さび』卷上）。

元凶の我見を断たなければ、せつかくの法施も悪業となつてしまいます。白隠は言います、「他人に勝ちたいとか、富と名声を得たいという（我執の）心こころがごくわずかでもあれば、それは汚れた説法である。汚れた説法をすれば、地獄に墮ちる。ただ願わくは、老若男女・尊卑僧俗を分けることなく、生きとし生ける者すべてを己おのが掛替かかえなき愛し子と思いなし、永遠に退転することのない無限の慈悲の心によって倦うまず撓たぶまず教え導き、皆とともに最高の菩提さとりを完成してほしい」（『八重葎』卷一坤）。自他を分け自分のためにする

のであれば地獄に墮ちるが、自他を隔てず皆のために励むのであれば自他ともに救われるというわけです。

このことを白隱に気づかせたのが、三度目の大悟の契機となった春日神かすがのみの託宣なのでした。それを回想した白隱の言葉を二つ引き、今回の結びといたします。

かつて春日神は解脱上人げだつしやうじんにお告げになった、「かつての智者高僧ちしやこうそうも、菩提心ぼだいしんの無い者はみな尽く魔道まどうに墮ちてしまった」と。思うに菩提心とは悟後の修行のことである。悟後の修行とは、上求菩提・下化衆生に他ならない。人々の苦しみを除いて楽を与え、慈悲喜捨じひきしゃ（という偉大な利他の心）を具え、法施の大善行を弛またゆまず続けるのである。（『八重葎』巻三）

もしも春日神の思し召しが無ければ、我らはみな尽く魔道に墮ちてしまったことだろう。……解脱上人ひとりを救ったように見えるが、実は後世の人々が魔道に墮ちるのを未然に防いでくださったのだ。……そのご恩は仏祖にも遙かに勝る。いくら粉骨碎身（法施）しても、とても報いることはできない。

（『勸発菩提心偈附たり御垣守』）

【主な参考文献】

- 福場保洲『白隱』（弘文堂書房、一九四一年）。
- 柳幹康「白隱慧鶴と菩提心の判」（『印度学仏教学研究』六八一、二〇一九年）。
- 芳澤勝弘『白隱 禅画の世界』（KADOKAWA、二〇一六年）。

柳幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所副所長・准教授。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による中国仏教の再編』（法藏館）。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

*ズ切りは毎月1日です。

『花園』へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

*住所、氏名を必ずお書きください。

*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

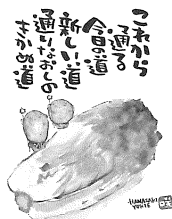
*なお投稿はお返しいたしません。

花園
hanazono

「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

- 【花園】第70巻 第2号(通巻第822号)
令和2年2月1日発行(毎月1日発行)
定価55円
- 【発行人】栗原正雄
【編集人】畠中寿浩
【印刷人】喜田真司
【発行所】〒616-8035 京都市右京区花園
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替／01060-9-1400番
電話／075-463-3121番

表紙の絵「これから通る 今日の道
新しい道 通りなおしの きかぬ道」



やり直しのきかない人生。道は通った後に
できるもの。後悔しないように
今を大切に生きよう。 絵・花咲幸絵

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。
下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。